

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100141		
法人名	社会福祉法人正恵会		
事業所名	グループホーム ホームタウン宝木 (ひいらぎユニット)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木町2丁目2563-31 (028-623-1485)		
自己評価作成日	平成22年10月26日	評価結果市町村受理日	平成23年3月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成22年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアマネジメント業務を通し、一人ひとりに合った支援を心がけている。その土壌として、人として、当たり前の生活の支援。例えば、職員からの挨拶や声かけに始まり、トイレでの排泄など。利用者さん9名という少人数であるが、業務の忙しさという理由で、孤立する利用さんがいないように、支援をあまりされない利用者さんがいないように。また、これではないかという支援にならないように心がけている。当たり前の事ではあるが、忘れやすい部分でもあるのではないかと考えている。その上での専門性の大きな柱として、身体介護、認知症ケア、機能訓練、余暇支援(レクリエーション支援)の4点。ホーム内での学習会を行っている。オープンしてから2年目である状況としては、今後1年～3年はこの4つの柱をさらに煮詰める方向である。その後は、ケアの到達点にあわせ、柔軟に対応していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(外部評価結果は「かえでユニット」の評価シートに記載)

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十分な理念の共有化は出来ていない。	(外部評価は「かえでユニット」の評価シートに記載)	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	診療所、病院、薬局、理髪店、スーパー等を利用の際に多少の交流がみられる。近隣の方とも挨拶程度の交流はあるが、日常的な交流までは行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階では特に地域貢献は行われていないが運営推進会議において、認知症の相談機関的な議題が出ており、今後煮詰めていく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、自治会に加入。定期的に行い情報交換やアドバイスをいただくなど会議を有意義なものにしていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に無い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われておらず、会議にて身体拘束について学習会を行った。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会にて虐待について学び、一人一人注意しながらケアを行うよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部職員は研修等で学ぶ機会があるがその他の職員は学ぶ機会がまだ十分に得られていない		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や契約時に説明を行い、理解・納得を得られていると思われる		
10	(6)	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中での利用者の表情や会話などから気持ちをくみ取れるよう努力している。家族からは面会時やケアプラン変更時等にお話を伺うようにしている。		
11	(7)	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談や書類の提出の機会があり、月に一度会議も開いており意見や提案を聞く機会は設けられていると思われる		
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や人事考課表、研修計画シートなどの書類の提出が定期的に行われている		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修・勉強会の機会があり、日常の業務時にも指導が行われている		
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修時に交流はあるが、その後の交流はあまり出来ていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来るだけ利用者と面談しアセスメントを行い不安や困りごとを取り除けるよう努力している		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談・契約時に話を伺い説明を行っている		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いを行い支援についての対応を検討している		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・食事・買い物など一緒に行える事は全員ではないが出来る利用者様とは一緒に行うよう心がけている		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に利用者様の状態を家族に報告し、面会や外出の促しを行い家族の状況も利用者様に伝わるように努力している		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚には面会や電話でのやりとりで交流が出来ているがそれ以外の方たちとはあまり交流がない。昔住んでいた場所や時代の話作りを心がけている		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の把握に努め一人になりがちな方を複数の利用者様と関われるように促したり、個別に関わりを持ち孤立しないように努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の支援は特に行っていないが、家族から相談がある時は必要に応じて対応している		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にてコミュニケーションを図りその時の状況に合わせて対応するように努力している		
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族、場合によっては以前利用していた施設や病院などに話を聞き把握に努めている		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で観察し把握に努めている。必要に応じて詳細を記録し経過を追っている		
26	(10)	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に話を聞いたり、家族には状態説明を定期的に行っているの中でその中で要望や意見を頂き介護計画を作成している。職員からの意見は個人差がありモニタリング・アセスメントが努力はしているがまだ十分ではない		
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入は職員で差があるため努力はしているがまだ十分ではない毎日記録を読み返すよう心がけている		
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時のニーズに対して個別にすばやく対応しなければいけないがまだまだ十分ではなく努力が必要		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護・訪問歯科・訪問マッサージを利用している。近所の理髪店やスーパー等へ出かけている。ボランティアを受け入れ外部の人との関わりを持ち始めている。自治会での関わりや他の地域資源を見つける努力が必要		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がいる場合は家族又は職員対応にて通院を行い、いない場合は職員にて施設の対応の病院に一ヶ月に一度は定期受診、不定期受診も行い、状態報告を病院・家族に行っている。在宅療養の方は2週間に一度往診を受けている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護を受けている為その時に状態の報告を行い指示を受けている。また必要に応じてデイサービスの看護師に協力してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、医者や看護師、PT、OTなどから情報を頂き長期の入院にならないよう相談を行い対応した		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療依存が高くなると施設での生活が難しくなる事は面談時や見学の際に伝えている。終末期ケアは今行っていないが、その状況になったときには医者や家族の意見を踏まえて検討する必要がある		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが定期的な訓練や勉強会が行われておらず、職員によって差がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが地域との協力体制は不十分と思われる。日中は職員数が確保されているが、夜間は各ユニット1人ずつの避難・誘導に課題がある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び方・言葉使いには意識して注意している。現実とずれて話をしている時にはその状態に合わせた対応を心がけている。利用者様個人についての話は職員のための空間にて話をする個別に話をする時には各利用者様の居室にて話をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と一緒に考えて行える事はなるべく一緒に行い、希望や意見を聞くことが出来る状態を作るよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り行えるよう努力はしているが、一日全てを一人一人のペースで行う事は職員の人数、状態により難しいと思われる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣服選べる方とは一緒に選んだり、備え付けの鏡が見えない方には持ち運びが出来る鏡にて身だしなみを行って頂く男性は髭が伸びすぎないように入浴時のひげそりを日課にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に行い状態に合わせてお粥やきざみ食などを提供している。出来る利用者様とは一緒にキッチンに立ち準備片付けを行っている。一人一人の好みに合わせての所まではまだまだ努力が必要。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医者からの指示にて量の調整・塩分制限などを行っているがカロリー計算や数量を量ったりとまではしていない。食事・水分量にばらつきがある方は量の把握をしない時には食間に摂って頂くようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後・夕食後の口腔ケアは出来てきているが、朝食後は職員が1人対応の為対応が出来ていない。訪問歯科は週に2回受けて情報の交換を行ったり指示を仰ぎ対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様に合わせ誘導時間や回数を工夫している。紙のリハビリパンツから布のパンツに変更した事で皮膚の弱い方の皮膚の状態が改善された		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内研修にて学び、便秘気味の方には医者・看護師の指示を仰いだり、食事の際に芋類や食物繊維を含む食べ物を提供しよう努力している起床時、夜間、食間の牛乳や乳製品の摂取や入浴時、排泄時の腹部マッサージを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から夕食後まで入浴時間をとり出来る限り希望に合わせているがまだ十分ではない。楽しい雰囲気作り入浴ケアの部分ではまだまだ職員の勉強が必要。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自己にて行える方は自身にて行って頂き自己判断が難しい方には、職員がその時の状態に応じて休息を促したりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理簿・服薬チェック表を作り誤薬・服薬忘れに注意している。薬の目的・副作用などの把握は職員によって差がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努力はしているが職員の力量不足によりまだmだ十分な支援には至っていない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望にそっての外出や日常の外出は行っているが十分な支援にまで達していない。家族との外出・外泊は自由であり行われている。地域の方の協力まではまだ行えていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持については家族と相談し自己管理されている方もいる。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りは自由。手紙のやり取りを行っている方はいないが、電話は本人の希望時に施設の電話にて対応している。相手が決まっている場合には前もって相談し時間帯などの調整を行っている		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板を月ごとにかえ利用者様と一緒に作成している時もある。行事の際の写真を飾ったりしている。温度・湿度管理、定期的な換気を行い不快のないように心がけている		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にて独りになれる空間はなかなか出来ないが、普段座っている自身の席だけでなく一緒にレクリエーションや創作活動を行う際には席を移動したりして利用者様同士の関わりがもてるように努めている		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活が少しでも感じられるように1人1人に合わせ家族とも相談し、布団、テーブル、テレビ、筆筒、仏壇など持参して頂いている		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂場の表示や各居室の表札、自室の把握が難しい方には本人の顔写真を貼り提供しているが十分ではない		